

3章－1 現代の世界と日本

問題

■確認問題

- 1 P K O協力法（国際平和協力法）
- 2 米市場
- 3 プラザ合意
- 4 北海道旧土人保護法
- 5 湯川秀樹
- 6 文化財保護法
- 7 おおすみ
- 8 丸山真男
- 9 黒澤明

【1】

■解答

- (1) a 26 b 44 c 24 d 30 e 47 f 12 g 09 h 31
(2) i 03 j 39 k 05 l 43

■解説

- a 第1次石油危機は1973（昭和48）年10月に勃発した第4次中東戦争に起因する。この戦争でアラブ産油国は原油生産の削減を行い、原油価格は暴騰した。これ以降、世界経済は低成長の時代に入っていった。O P E Cは石油価格を約4倍にすることを発表し、使用エネルギーの約80%以上を輸入原油に依存していた日本では「狂乱物価」と呼ばれる物価暴騰が起こるなど、深刻な経済危機に陥った。
- b 赤字国債とは一般会計予算の歳入の不足分を補うためにやむを得ず発行する国債のこと。財政支出に占める国債費の割合は、1975（昭和50）年度にこの赤字国債の発行が始まって急速に拡大した。国債は次代の国民に負担をかける国の借金であり、1947（昭和22）年に制定された財政法で赤字国債の発行は禁じられていた。田中角栄内閣後に成立した三木武夫内閣が初めて編成する1976（昭和51）年度の予算案では、当初予算から赤字国債を計上し、建設国債と赤字国債を加えると予算案の歳入における国債の依存率が3割弱になる赤字予算を組まなければならない状態であった。
- c・d 1981（昭和56）年3月、鈴木善幸内閣の時に土光敏夫を会長とする第2次臨時行政調査会が発足した。この第2次臨調は行・財政の縮減のため新しい行政システムの確立を目標に、5回の答申を行った。臨調の当初の意気込みはすさまじいものがあったが、政府側は総論では賛成するも各論では反対という昔ながらの姿勢を変えず、各省庁は激しい抵抗を繰り返したため、実際には行政機構の改革はほとんど行われないうままに終わった。但し、内閣が中曽根康弘内閣に代わると、その答申を基にした国鉄・専売・電電の3公社の民営化については推進され、国鉄は分割されてJ R 7社となり、専売公社は日本たばこ産業（J T）、電電公社は日本電信電話（N T T）にそれぞれ移行した。
- e 1983（昭和58）年に成立した第2次中曽根内閣において、総理大臣の諮問機関として臨時行政改革推進審議会が設置された。この審議会は第2次臨調後の行革推進の審議に当たった。

- f・g 1978（昭和53）年に成立した大平正芳内閣の時、財政赤字削減のため、税制調査会が一般消費税の導入を進めた。しかし国民の反発により導入には至らなかった。
- h 中曽根内閣のあとに成立した竹下登内閣は、1988（昭和63）年に消費税導入などの税制改革法案を可決した。12月の参議院本会議において税制改革6法案が可決された。野党の牛歩戦術により長時間の缶詰状態で投票が行われ、ようやく法案は成立したのであった。この結果、1989（平成元）年から、ほぼすべての商品とサービスに一律3%を課税する消費税が導入された。
- i・j 1985（昭和60）年の先進5カ国財務相中央銀行総裁会議（G5）によるプラザ合意は、ドル高是正による国際収支の不均衡是正をめざしたものであった。しかしこの合意ののち、逆にドル安が進展し、日本では円高が加速して輸出産業を中心に不況が一時深刻化した。しかし1987（昭和62）年にはG7による協議においてルーブル合意がなされ、ドル安の進行に歯止めがかけられた。G5はアメリカ・イギリス・フランス・ドイツ・日本、G7はこの5カ国にイタリアとカナダを加えたものである。なお、プラザ合意はニューヨークのプラザホテルにおいて、ルーブル合意はパリ郊外のルーブルにおいて会議がそれぞれ開催されたことによる。
- k GATT（関税及び貿易に関する一般協定）は、1948年に成立した国連専門機関の1つである。この組織はケネディ=ラウンド・東京=ラウンド・ウルグアイ=ラウンドなどのラウンド交渉を通じ、関税の引き下げを行ってきた。またGATTは1995（平成7）年に世界貿易機構（WTO）に改組された。
- l 1993（平成5）年、細川護熙内閣は非自民連立政権として、8党派が結集して成立した。その8党派により食糧の安定確保や米の部分開放が合意された。

【2】

解答

- A ① ア ② エ ③ ウ ④ イ ⑤ エ ⑥ ア ⑦ ア ⑧ ウ
 ⑨ ア ⑩ イ ⑪ ウ
 B a 永井荷風 b 日本学術会議 c 中間小説

解説

A

- ① 「改造」は1919（大正8）年山本実彦が改造社を創立して創刊、岩波書店の「世界」、筑摩書房「展望」は1946（昭和21）年にそれぞれ創刊されている。
- ② 井上靖のその他の代表作としては、『天平の甕』『氷壁』などが挙げられる。
- ③ 「ひめゆりの塔」は今井正の作品である。溝口健二には「浪華悲歌」のほか、ベネチア映画祭国際賞を受賞した「西鶴一代女」などの作品がある。
- ④ 発掘調査の開始時期は、アは1949（昭和24）年、ウは1953（昭和28）年、エは1954（昭和29）年である。
- ⑤ アの石母田正は歴史学者で1946（昭和21）年に「中世的世界の形成」を発表した。イの大塚久雄は経済史学者で1944（昭和19）年に『近代資本主義の系譜』を著した。ウの川島武宜は法社会学者で、1948（昭和23）年に『日本社会の家族的構成』を著した。政治学者

- 丸山真男の「超国家主義の論理と心理」は1946（昭和21）年、雑誌「世界」に発表された。
- ⑥ 1949（昭和24）年、湯川秀樹が日本人最初のノーベル物理学賞を受賞した。朝永振一郎は1965（昭和40）年にノーベル物理学賞を、江崎玲於奈は1973（昭和48）年にノーベル物理学賞を、福井謙一は1981（昭和56）年にノーベル化学賞をそれぞれ受賞している。
 - ⑦ 1949（昭和24）年にイの法隆寺金堂壁画が焼損したのが契機となって、翌1950（昭和25）年に文化財保護法が制定された。鹿苑寺金閣（舍利殿）はその直後に放火により焼失した。三島由紀夫はこの事件を題材として小説『金閣寺』を著した。
 - ⑧ オリンピックは1956（昭和31）年にメルボルン、1960（昭和35）年にローマ、そして1964（昭和39）年に東京で開催された。
 - ⑨ 白黒テレビ放送開始は1953（昭和28）年2月、吉田茂内閣の時、カラーテレビ放送開始は1960（昭和35）年9月、池田勇人内閣の時である。
 - ⑩ 神武景気は1955～57（昭和30～32）年、岩戸景気は1958～61（昭和33～36）年、オリンピック景気は1963～64（昭和38～39）年、いざなぎ景気は1966～70（昭和41～45）年である。
 - ⑪ 白黒テレビは、1959（昭和34）年の皇太子・正田美智子の結婚式のテレビ中継が契機となって急速に普及していった。

B

- a 永井荷風は戦争中に『つゆのあとさき』『ひかげの花』『墨東綺譚』を著し、時勢に迎合しない姿勢を見せていた。なお、川端康成は1961（昭和36）年に『伊豆の踊子』で文化勲章を受賞した。
- b 日本学術会議は、学術諸分野の統合的の代表機関として1948（昭和23）年制定の日本学術会議法に基づき発足した機関である。日本の「科学者の内外に対する代表会議として、科学の向上発達をはかり、行政、産業および国民生活に科学を反映浸透させることを目的」として、戦争時の反省に立って学問・思想の自由と平和主義を根本理念に掲げて設立された。
- c 社会派推理小説として松本清張、歴史小説として司馬遼太郎、社会派小説として有吉佐和子らが代表的作家として挙げられる。

3章-2 総合演習①政治史

要点

1. 律令体制

【1-1. 律令の形成過程】

- ① 唐 ② 高向玄理 ③ 入鹿 ④ 孝徳 ⑤ 改新の詔 ⑥ 齊明
⑦ 白村江 ⑧ 水城 ⑨ 壬申 ⑩ 持統 ⑪ 八色 ⑫ 飛鳥浄御原
⑬ 藤原

【1-2. 律令制度】

- ① 弾正台 ② 6 ③ 国造 ④ 官位相当の制 ⑤ 蔭位の制 ⑥ 官職
⑦ 屯倉 ⑧ 部曲 ⑨ 庚午年籍 ⑩ 庚寅年籍 ⑪ 2 ⑫ 軍団
⑬ 衛士 ⑭ 防人 ⑮ 3 ⑯ 布(麻布) ⑰ 国司 ⑱ 出挙 ⑲ 義倉
⑳ 仕丁 ㉑ 運脚

2. 律令の変質

【古代政治史(律令国家から王朝国家へ)】

- ① 三世一身 ② 光明子 ③ 吉備真備 ④ 広嗣 ⑤ 恭仁 ⑥ 国分寺建立
⑦ 行基 ⑧ 鑑真 ⑨ 橘奈良麻呂 ⑩ 称徳 ⑪ 天智 ⑫ 藤原種継
⑬ 勘解由使 ⑭ 健児 ⑮ 坂上田村麻呂 ⑯ 胆沢 ⑰ 橘逸勢 ⑱ 応天門
⑲ 良房 ⑳ 宇多 ㉑ 菅原道真 ㉒ 安和 ㉓ 外祖父 ㉔ 後三条
㉕ 延久 ㉖ 白河 ㉗ 院の近臣 ㉘ 北面 ㉙ 棟梁

3. 中世の政治経過

【3-1. 鎌倉時代】

- ① 保元 ② 平徳子 ③ 安徳 ④ 太政大臣 ⑤ 鹿ヶ谷 ⑥ 以仁王
⑦ 壇の浦 ⑧ 侍所 ⑨ 寿永二年十月 ⑩ 守護 ⑪ 地頭 ⑫ 征夷大將軍
⑬ 三善康信 ⑭ 六波羅探題 ⑮ 知行国 ⑯ 本領安堵 ⑰ 京都 ⑱ 分割
⑲ 単独 ⑳ 血縁 ㉑ 地縁 ㉒ 大番催促 ㉓ 新補 ㉔ 下地中分
㉕ 実朝 ㉖ 大田文 ㉗ 藤原(九条)頼経 ㉘ 評定衆 ㉙ 先例 ㉚ 宝治
㉛ 御内人 ㉜ 霜月 ㉝ 異国警固 ㉞ 鎮西 ㉟ 永仁 ㊱ 持明院
㊲ 大覚寺 ㊳ 両統迭立

【3-2. 南北朝・室町時代】

- ① 綸旨 ② 大内裏 ③ 中先代 ④ 北 ⑤ 征夷大將軍 ⑥ 1392
⑦ 関東管領 ⑧ 御料所 ⑨ 段銭 ⑩ 酒屋 ⑪ 刈田狼藉 ⑫ 美濃
⑬ 半済 ⑭ 守護 ⑮ 国人一揆 ⑯ 下剋上 ⑰ 不入 ⑱ 花の御所

- ⑭ 応永 ⑮ 足利義教 ⑯ 足利持氏 ⑰ 堀越 ⑱ 山名持豊 ⑲ 畠山
 ⑳ 斯波 ㉑ 足輕 ㉒ 分国法 ㉓ 寄子 ㉔ 城下町 ㉕ 指出 ㉖ 太閤
 ㉗ 一地一作人

4. 近世の政治史

【4-1. 幕藩体制の確立と推移】

- ① 知行 ② 本百姓 ③ 参勤交代 ④ 武家諸法度 ⑤ 禁中並公家諸法度
 ⑥ 家光 ⑦ 殉死 ⑧ 由井正雪 ⑨ 明暦 ⑩ 荻原重秀 ⑪ 新井白石
 ⑫ 海船互市（正徳） ⑬ 大名貸 ⑭ 定免 ⑮ 上げ米 ⑯ 漢訳
 ⑰ 堂島 ⑱ 足高 ⑲ 公事方

【4-2. 幕藩体制の動揺と衰退】

- ① 専売 ② 株仲間 ③ 俵物 ④ 天明 ⑤ 旧里帰農 ⑥ 社倉
 ⑦ 人足寄場 ⑧ 七分 ⑨ 棄捐 ⑩ 異学 ⑪ 昌平坂 ⑫ 関東取締
 ⑬ 水野忠邦 ⑭ 郡内 ⑮ 加茂 ⑯ 蛮社の獄 ⑰ 大塩
 ⑱ 株仲間解散 ⑲ 上知 ⑳ 高島秋帆 ㉑ 反射炉 ㉒ 人返しの法
 ㉓ 越荷方 ㉔ 有田 ㉕ 反射炉 ㉖ 薩英戦争 ㉗ 薩長連合

5. 近代の政治史

【5-1. 立憲国家の成立】

- ① 五榜の掲示 ② 政体書 ③ 1869 ④ 知藩事 ⑤ 御親兵 ⑥ 県令
 ⑦ 徴兵告諭 ⑧ 壬申戸籍 ⑨ 秩禄処分 ⑩ 廃刀 ⑪ 地価 ⑫ 通貨
 ⑬ 左院 ⑭ 愛国社 ⑮ 立憲政体樹立の詔 ⑯ 集会 ⑰ 国会開設の勅諭
 ⑱ 日本憲法見込案 ⑲ 自由 ⑳ 保安 ㉑ 貴族 ㉒ 枢密院 ㉓ 統帥
 ㉔ 天皇機関説 ㉕ 輔弼 ㉖ 協賛 ㉗ 軍人勅諭 ㉘ 法律 ㉙ 超然
 ㉚ 民党 ㉛ 品川弥二郎 ㉜ 地租軽減 ㉝ 対外硬派

【5-2. 藩閥政府と政党】

- ① 板垣退助 ② 進歩 ③ 共和演説 ④ 治安警察法 ⑤ 元老
 ⑥ 戊申詔書 ⑦ 大逆 ⑧ 特別高等 ⑨ 2個師団増設 ⑩ 護憲運動
 ⑪ 米騒動 ⑫ 大正デモクラシー ⑬ 四大政綱 ⑭ 常任理事 ⑮ 普通選挙

【5-3. 政党政治の盛衰】

- ① 虎の門 ② 革新倶楽部 ③ 憲政の常道 ④ 25 ⑤ 治安維持
 ⑥ 枢密院 ⑦ 死刑 ⑧ 張作霖 ⑨ 統帥権干犯 ⑩ 井上準之助
 ⑪ 団琢磨 ⑫ 拳国 ⑬ 二・二六 ⑭ 佐野学（鍋山貞親） ⑮ 滝川幸辰
 ⑯ 河合榮治郎 ⑰ 企画院 ⑱ 勅令 ⑲ 新体制 ⑳ 首相 ㉑ 翼賛

6. 戦後の政治史

- ① 極東国際軍事
- ② 持株会社整理委員会
- ③ 過度経済力集中排除
- ④ 教育基本
- ⑤ 冷戦
- ⑥ シャウブ
- ⑦ 国際連合
- ⑧ 朝鮮戦争
- ⑨ 公職追放
- ⑩ 55年
- ⑪ MSA
- ⑫ 事前協議
- ⑬ 10
- ⑭ 安保改定阻止
- ⑮ 所得倍増
- ⑯ 佐藤栄作
- ⑰ 公害
- ⑱ 石油

7. 東北・北海道・北方領土の歴史

- ① 淳足柵
- ② 磐舟柵
- ③ 阿倍比羅夫
- ④ 坂上田村麻呂
- ⑤ 前九年の役
- ⑥ 後三年の役
- ⑦ 奥州藤原氏
- ⑧ 商場知行
- ⑨ 場所請負
- ⑩ シャクシャイン
- ⑪ ユーカラ
- ⑫ プチャーチン
- ⑬ 工藤平助
- ⑭ 最上徳内
- ⑮ 近藤重蔵
- ⑯ 開拓使
- ⑰ 屯田兵
- ⑱ 札幌農学校
- ⑲ クラーク
- ⑳ 日露和親条約
- ㉑ 樺太・千島交換条約
- ㉒ ポーツマス条約
- ㉓ ヤルタ協定
- ㉔ 日ソ共同宣言

8. 女性史

- ① 卑弥呼
- ② 婿入婚
- ③ 七去
- ④ 縁切寺
- ⑤ 青鞆社
- ⑥ 新婦人協会
- ⑦ 平塚らいてう
- ⑧ 市川房枝
- ⑨ 赤瀾会
- ⑩ 婦人参政権獲得期成同盟会
- ⑪ 婦選獲得同盟
- ⑫ 五大改革指令
- ⑬ 男女雇用機会均等法

問題

【1】

解答

問A 1 問B 3 問C 1 問D 6 問E 2 問F 5 問G 3
問H 3 問I 6 問J 4

解説

古代の戦乱に関する問題である。かなり細かい知識が必要になる上に、適当なものがない場合は6を選択しなければならないため消去法も使えない。しかし、中には標準的な選択肢も含まれているので、そこを糸口として解答していきたい。

問A

- 1 壬申の乱で大海人皇子に敗れ自殺した大友皇子は、その当時即位していたか否かについて不明であるが、明治時代に即位説が採用されて弘文天皇の名が贈られた。
- 2・4 大海人皇子は吉野で挙兵し、伊賀、伊勢から美濃に入ってここを本拠地とすると、東国の豪族を結集して近江朝廷側と戦った。「西国の豪族の援助」というのは誤り。
- 3 天武天皇は、その治世に一人の大臣も置かず、皇親政治を推進して神的権威を確立した。
- 5 飛鳥浄御原宮は藤原京の東南に位置していた。藤原京の北に位置するのは平城京である。

問B 3が誤り。聖武天皇は740(天平12)年、藤原広嗣の乱が起きると、平城京を離れて山背国の恭仁京へ遷都した。その後も難波宮、近江紫香楽宮へと遷都を繰り返し、745(天平17)年に再び平城京へ戻った。

藤原広嗣は式家藤原宇合の子で大宰少貳に左遷されていたが、橘諸兄政権下で権勢を振るっていた玄昉と吉備真備の排斥を要求し、九州で反乱を起こした。

問C 南家の藤原武智麻呂の子である藤原仲麻呂は淳仁天皇を擁立した。仲麻呂は淳仁天皇より恵美押勝の名を賜るが、孝謙太上天皇の寵愛を受けた道鏡の排斥に失敗して斬られると、淳仁天皇も廃位となり淡路へ配流とされた。そのため淳仁天皇は淡路廃帝と呼ばれる。

問D

すべて誤り、よって6が正解となる。

- 1 780(宝亀11)年、按察使紀広純を殺害し、多賀城を焼き討ちにしたのは伊治哲麻呂である。蝦夷の族長である阿弓流為は802(延暦21)年に坂上田村麻呂に降伏し京都に送られたが、田村麻呂の助命嘆願にもかかわらず斬首された人物。
- 2 多賀城は724(神亀元)年に設置され、鎮守府と陸奥の国府が置かれていたが、802(延暦21)年、坂上田村麻呂が北方に胆沢城を築くと鎮守府のみ多賀城から胆沢城へ移された。よって9世紀中頃まで多賀城に鎮守府が置かれていたというのは誤り。
- 3 難問。桃生城が設置されたのは759(天平宝字3)年である。よって桓武天皇の時に築かれたというのは誤り。
- 4 桃生城が設置された場所は太平洋側の北上川の下流域である。最上川は日本海側の川であるため誤り。
- 5 雄勝柵(城)は759(天平宝字3)年に日本海側に設置された城柵。文室綿麻呂は811(弘仁2)年、嵯峨天皇の時に蝦夷征討を行った人物であるので誤り。

問E

- 1・4 藤原緒嗣と菅野真道が逆である。
- 2 正しい。徳政論争が805（延暦24）年であることは知っていても桓武天皇が亡くなった年（806年）を知っている生徒はいないのではないかと思う。難問である。
- 3 「造作」とは七道の整備のことではなく平安京の造営のことである。
- 5 徳政論争の史料では藤原緒嗣と菅野真道の二人のみが論争しているため、「多くの官人の意見も聴取」というのは誤り。

問F

- 1 平将門の本拠地は下総国猿島^{さしま}（茨城県）であるため誤り。
- 2 藤原純友の本拠地は伊予国日振島^{ひぶりしま}であるため誤り。
- 3 将門は自らを「天皇」ではなく「新皇」と呼んだので誤り。
- 4 将門の乱を鎮圧したのは下野国の押領使藤原秀郷と平国香の子平貞盛である。秀郷は上野国の追捕使ではないので誤り。

問G

- 1 藤原道隆の子である藤原伊周^{これちか}とその弟の藤原隆家は、叔父の藤原道長との争いに敗れ、隆家は大宰府に左遷された。
- 2～5 沿海州に住む女真族^{とい}（刀伊）が九州北部を襲撃すると、隆家は在地の武士を率いて刀伊を撃退した。隆家は後に都へ帰ったが、刀伊撃退の功績によって特に昇進することはなかった。よって「戦いの傷がもとで大宰府で亡くなった」というのは誤り。

問H 平忠常の乱を鎮圧したのは源満仲の子源頼信である。

問I

難問である。1～5まですべて誤り。よって6が正解となる。

- 1 前九年の役を鎮圧したのは源頼義・義家父子であるが、頼義は出羽守ではなく陸奥守兼鎮守府将軍であったので誤り。
- 2 「後三年合戦絵巻」は、平安時代ではなく、南北朝期に描かれたので「従軍した絵師によって描かれた」というのは誤り。
- 3 後三年合戦（後三年の役）を鎮圧したのは源義家であるので誤り。源為義は義家の孫で、保元の乱に敗れ斬首された人物。
- 4 安倍氏が俘囚の長として勢力を持ったのは、奥六郡（陸奥国北部、衣川以北の胆沢^{いざわ}・江刺^え・和賀^{さし}・稗貫^{ひえぬき}・紫波^{しわ}・磐井^{いわい}）であるため誤り。
- 5 源氏は、後三年合戦以前の源経基^{つねもと}の代より、武芸を家業とする兵の家を形成しているため、後三年合戦を鎮圧後に兵の家を形成したというは誤り。

問J 中尊寺金色堂には奥州藤原氏の藤原清衡・基衡・秀衡の3代のミイラが安置されているが、あわせて4代目の藤原泰衡の首級も安置されている。秀衡・泰衡父子は当初源義経を匿っていたが、秀衡の死後泰衡は頼朝の命により義経を討った。しかし頼朝は義経を匿ったとして泰衡を許さず、泰衡は頼朝の奥州征伐によって討たれた。

【2】

解答

- 1 (セ) 2 (ケ) 3 (ヌ) 4 (ノ) 5 (ホ) 6 (イ)
7 (チ) 8 (ハ) 9 (ク) 10 (ア) 11 (ソ) 12 (ト)
13 (コ) 14 (エ) 15 (ニ)

解説

東北地方の古代・中世に関する問題である。

- (a) 多賀城は宮城県多賀城市に位置し、古代、蝦夷経営の拠点とされた。土塁の一部が現存する。多賀城にある石碑には、多賀城は大野東人によって724(神亀元)年に設置されたと記されているが、設置年については諸説ある。漆で固められた漆紙文書は1978(昭和53)年に土中より発見された。
- (b) 前九年の役は俘囚の長であった安倍氏によって起こされた乱である。俘囚とは朝廷に服属した蝦夷を意味する。平安時代初期の征討事業ののち服属した蝦夷を居住させる地として、衣川関以北に奥六郡が設定されたが、これを支配したのがこの安倍氏であった。乱は1051(永承6)年に安倍氏の国司への反抗から始まり、一時安倍氏は帰順したものの再び戦闘が繰り広げられ、出羽の俘囚の長の清原氏の来援を得て1062(康平5)年に源頼義・義家がこれを平定した。この戦いは前後12年に及んだので、古くは十二年合戦とも呼ばれた。
- (c) 源義家は八幡太郎義家とも呼ばれる。陸奥守兼鎮守府将軍として後三年の役を平定したが、朝廷はこれを私闘として恩賞を与えず、義家は私財をもって配下の武士をねぎらったことから東国の武士の信望を集め、源氏東国進出の基盤をつくった。
- (d) 藤原清衡は藤原秀郷の後裔である藤原経清と安倍頼時(頼良)の娘の間に生まれた。前九年の役で安倍頼時側についた父経清は、源頼義に殺害された。残った母は清衡を連れて夫と安倍氏の仇敵であった清原武貞と再婚し、清衡の異父弟になる家衡を産んだ。のち清衡は清原氏の嫡男真衡、さらには家衡とも争い、清衡が勝利して奥羽を支配するに至った。
- (e) 藤原清衡は奥羽支配を確立したのちは、安倍氏のかつての本拠地衣川にほど近い平泉に本拠地を移し、1105(長治2)年より中尊寺の造営を開始した。それから20余年を経た1126(大治元)年に落慶法要が開かれた。金色堂の内部は金箔が押され螺鈿や瑠璃・玻璃でおおわれており、光堂と呼ばれる。
- (f) 毛越寺は寝殿造の様式をとりいれた庭園と建物をもつ寺院であったが、数度の火災により伽藍は焼失し、庭園にその面影を残すのみである。庭園は陸中海岸を写しとったものといわれる。
- (g) 白水阿弥陀堂(願成寺阿弥陀堂)は福島県いわき市内郷白水町の願成寺内にある御堂である。1160(永暦元)年に岩城則通の妻(藤原秀衡の妹)が夫の冥福を祈願して建立したものである。富貴寺大堂は大分県豊後高田市にあり、九州にある最古の木造建築物である。

【3】

解答

問1 北条貞時 問2 霜月騒動 問3 執権・連署 問4 永仁の徳政令

問5 借上 問6 異国警固番役 問7 十六夜日記

問8 分割相続による所領の細分化で収入が減少したことに加え、貨幣経済の浸透により困窮した御家人は所領を質入・売却した。その結果、土地の給付を通じて結びついていた幕府との関係性は薄れ、軍事力の弱体化を招いた。(100字)

解説

慶應大文学部に多い、ほとんど知られていない史料を用いた問題である。しかしこの問題は史料が読めなくてもほとんどの設問が解けてしまう。論述問題がしっかり書けたかどうかは可否のポイントとなるだろう。

問1 「禅閣」という聞いたことのない言葉で面食らった受験生もいるだろう。但し、設問文中の「当時の幕府における最高権力者」という記述と設問の「1308年」から見当をつけることは可能である。また、問2に「四半世紀近く前(つまり25年前)に、…事件が起こった」とあるため、 $1308 - 25 = 1283$ から、1285(弘安8)年の霜月騒動を想起して、北条貞時を解答することも出来る。

問2 「禅閣」の伯父(妹を養女としていたので外祖父にも当たる)は安達泰盛である。有力御家人であった泰盛は得宗家の外戚として重きをなしていたが、御内人との対立が生じていた。内管領の平頼綱は、安達泰盛の子が源氏の血を継ぐとして源姓を称し、將軍職につく野心を持つと讒言し、泰盛一族を滅ぼした。この事件を霜月騒動という。これ以降、貞時は得宗家に権力を集中させ、御家人の代表者が政治に関与する機会はますます少なくなり、得宗専制政治が確立した。

問3 「政務全般を統括する最高責任者2名」から執権・連署を思い出す。

問4 「十年ほど前」から、 $1308 - 10 = 1298$ で、1297(永仁5)年の永仁の徳政令を思い出す。下線部(c)の「領所を売り」あるいは下線部(d)近辺の「富有の輩に預け与え」からも御家人の土地に関する法令であることがわかる。

問5 鎌倉時代の高利貸なので、借上を答える。永仁の徳政令の史料では、一般庶民を表す「凡下」と表記されている。

問6 番役は、京都大番役・鎌倉番役などもあるが、中途に設けられた番役として、北条時宗が蒙古襲来に際して設置した異国警固番役がある。この番役は、弘安の役後も、元の再々度の襲来に備えて継続された。

問7 設問文中の「京都から鎌倉に下向した」「女性」「紀行文」から、阿仏尼の『十六夜日記』だとわかる。阿仏尼は、夫藤原為家の遺産をめぐる為家の先妻の子二条為氏らと争い、朝廷や六波羅に訴えたが、解決を見なかったため1279(弘安2)年、意を決して鎌倉に下った。

問8 史料にもあるが、「御家人社会ではどのような事態が進行しているか」については、窮乏化が想起できるだろう。その要因として分割相続による所領の細分化が挙げられる。それゆえに、所領を売却してしまう御家人が増加した。次に「軍事力」という用語の使い方がポイントとなる。鎌倉幕府の軍事力とは何かを考えれば、御家人が思いつくだらう。將軍(幕府)と御家人とは、土地の給与を通じて御恩と奉公の関係で結ばれていた。これを封建制度

という。御家人の所領売却は、幕府との関係が薄れることを意味し、軍事力の低下を招いた。

【4】

解答

A (41) (42) 25 (43) (44) 19 (45) (46) 11 (47) (48) 36
(49) (50) 39 (51) (52) 31 (53) (54) 26 (55) (56) 17
(57) (58) 35 (59) (60) 46 (61) (62) 44

B あ 徳川吉宗 い 田沼意次 う 松平定信

C e 権現 f 新田 g 米市場 h 株仲間 i 俵物 j 杉田玄白
k 七分積金 l 朱子学 m 懐徳堂 n 富永仲基

解説

〔1〕（あ）に該当する徳川吉宗は、「諸事（e）様御定めを通り」で、解答できた人もいよう。（e）には権現が入る。権現様とは徳川家康のことで、駿府で死去後、駿河の久能山に葬られ、のち日光に改葬された。朝廷から東照大権現の神号を受け、神として祀られた。（e）がわからなくとも、他の政策に関する文章で徳川吉宗だとわかる。参勤交代を緩める代わりに大名から石高1万石当たり100石の米を献上させる上げ米を実施し、財政を好転させた。上げ米の総額である年18万7,000石は、幕府の年貢収入の1割に相当する。幕府財政が安定した1731（享保16）年に上げ米は中止となり、参勤交代も元に戻された。また吉宗は、徴税法を検見法から定免法に改め、さらに新田開発を奨励した。堂島の米市場も公認し、米価の上昇に努めたため、「米公方」と呼ばれた。

〔2〕（い）は、干拓や、運上や冥加など営業税の徴収から、田沼意次であるとわかる。田沼意次は、印旛沼や手賀沼の干拓を命じたが、利根川の洪水と、田沼の失脚によって中止となった。田沼は、年貢に頼らず、経済活動を活発化させて、これを税として取り込むことを考え、株仲間の結成を奨励した。長崎貿易も積極的に行わせ、銅・俵物を輸出し、金・銀を輸入する政策を採った。このため1785（天明5）年に長崎に俵物役所を設置した。

〔3〕（う）には、天明の飢饉で江戸が無法地帯となっている中、改革に着手した松平定信が入る。天明の飢饉の東北における惨状を『後見草』で記したのは杉田玄白である。定信は田沼時代の政策をことごとく否定し、祖父である吉宗の享保の改革を理想とした。定信は飢饉対策と農村復興に尽力し、飢饉対策としては米穀を蓄えさせる困米や、町費を節約させ、節約分の7割を積み立てさせる七分積金（七分金積立）を行わせ、江戸町会所に運用させた。農村復興策としては、出稼ぎ制限令や、江戸に流入した者の帰村を奨励する旧里帰農令を出した。また出生した子を殺す間引きを禁じ、幕府が養育金を支給する赤子養育法を出し、農村人口を確保しようとした。

〔4〕定信は、朱子学を正学とし、古学や折衷学などを異学として、聖堂学問所での異学の講義を禁ずる寛政異学の禁を出した。聖堂学問所は、上野忍ヶ岡の林家の私塾、弘文館を綱吉が湯島に移建させたものだが、1797（寛政9）年に昌平坂学問所となり、官学化した。藩校は、長州藩の明倫館や薩摩藩の造士館の他は、1641年、米沢藩の興讓館、秋田藩の明德館、水戸藩の弘道館は最低限押さえない。私塾は、仏教を批判した『出定後語』の著者富永仲基や、『夢の代』で無神論（無鬼論）を説いた山片蟠桃などが学んだ懐徳堂の他は、大塩平八郎の

洗心洞、伊藤仁斎が京都に設立した古義堂、荻生徂徠が江戸に設立した護園塾^{けんえんじゅく}、同じく江戸に大槻玄沢が設立した芝蘭堂^{しらん}、広瀬淡窓が豊後日田に設立した咸宜園^{かんぎえん}、シーボルトが長崎に設立した鳴滝塾、緒方洪庵が大坂に設立した適塾がある。

【5】

解答

問A 1・5 問B 4・6

問C I：軍部大臣現役武官制の現役規定を削除し、予備・後備の大將・中將まで資格を拡大した。(40字)

II：軍拡要求を拒否した内閣打倒のため、軍部が大臣を推薦せずに内閣を総辞職に追い込むなどの弊害除去のため。(50字)

問D 2・4 問E 3・5 問F 5

解説

問A 1は「租借」が誤り。5の内容は日韓協約の内容。日韓協約は第1次～第3次から成り、第1次では、日本政府推薦の財政・外交顧問を設置し、第2次では、外交権を奪い、統監府を置いた。第3次では、内政権を奪い、同時に韓国軍隊も解散させた。

問B 4は制定が第2次伊藤博文内閣、改正は第2次山県有朋内閣。緩和は第1次山本権兵衛内閣によって行われた。6は第1次大隈重信内閣の時の出来事である。文官任用令は、文官の任用資格を規定した法律で、政党の獵官活動に対抗するために、山県内閣では、自由任用を制限し、有資格者を制限した。山本内閣では、逆に緩和により政党が進出した。

問C 【解答のポイント】

- 改正の内容＝軍部大臣現役武官制の現役規定を削除して任用範囲を拡大。
- 改正の理由＝軍部が軍部大臣の推薦権を利用して内閣を打倒したり、または、内閣の存立を脅かしたりするという弊害について述べている。

問D 2は大新聞と小新聞の内容が逆であるので誤り。4は、関東大震災が1923(大正12)年、ラジオ放送の開始が1925(大正14)年なので時期が誤り。

問E 3は「治安維持法が改正されて死刑が罰則に加わる」が誤り。治安維持法は、加藤高明内閣が普選法成立直前に立法したもので、その背景には普選法の導入の他に、日ソ国交樹立による無政府主義者や共産主義者の活動活発化の抑止もあった。制定当初は、10年以下の懲役・禁錮の罰則であったが、1928(昭和3)年の田中義一内閣の時に、緊急勅令により改正、強化。国体を変革しようとする活動の指導者に死刑を適用する旨を盛り込んだ。さらに、1941(昭和16)年の第2次近衛文麿内閣の時には、刑期が終了しても、思想を変えないものについては、引き続き拘禁できるという、予防拘禁制を追加した。5は、「無産政党は議席を獲得できなかった」が誤り。最初の普通選挙では、無産政党各派合わせて8名が当選した。

問F 黎明会は吉野作造らが、自由主義者や自由主義系の学者を中心に結成した。デモクラシー思想の発展普及に努めたが、内部の思想上の不一致により解散した。メンバーには、新渡戸稲造や三宅雪嶺、森戸辰男、大山郁夫、与謝野晶子らがいる。この段階で1～4は削除できる。『貧乏物語』は河上肇の著作であるので、6が削除でき、解答は5になる。「憲政の本義を説いて其有終の美を済すの途を論ず」を知らなくても消去法で解答できる。

【6】

解答

問 a ② 問 b ③ 問 c ④ 問 d ④ 問 e ⑤ 問 f ② 問 g ③
問 h ④

解説

- 問 a 民撰議院設立の建白書に署名したのは古沢^{しげる}滋，岡本健三郎，小室^{しのぶ}信夫，由利公正，江藤新平，板垣退助，後藤象二郎，副島^{そえじまたねおみ}種臣の8名。土佐出身の植木枝盛も立志社建白を起草したことで著名な民権運動家であるが，彼は民撰議院設立の建白書提出後に設立された立志社の演説会で板垣退助らの演説を聞いたことを契機に，自由民権運動へ傾倒したのであった。
- 問 b 1875（明治8）年2月，全国的な民権政社をめざして土佐の立志社を中心に愛国社が結成された。愛国社の創立大会は，東京ではなく大阪で開催されたので，③は誤り。この時の愛国社は中国・四国・九州の士族を集めて創立大会を開き，合議書を採択するのみで具体的に行動を起こさないままに自然消滅した。
- 問 c 開拓使官有物払下げ事件は，開拓長官黒田清隆が開拓使の官有物を同郷の政商五代友厚に安価で払い下げようとして問題化した事件。したがって伊藤博文ではなく黒田清隆が正しい。
- 問 d 岸田俊子や景山英子は自由民権運動に参加して活躍したが，立憲改進黨には加わっていない。岸田俊子は自由党副総理中島信行と結婚した。また，岸田俊子の政談演説に刺激されて民権運動に関わるようになった景山英子は，のちに自由党左派の大井憲太郎らとともに大阪事件に関わって入獄し，出獄後は大井憲太郎と結婚した。
- 問 e 治安警察法の公布は1900（明治33）年，第2次山県内閣の時である。1886～89（明治19～22）年の大同団結運動を弾圧したのは，1887（明治20）年公布の保安条例である。大同団結運動により，星亨・尾崎行雄・中島信行・中江兆民ら民権家570名が3年間皇居外3里の地へ退去させられた。
- 問 f 1884（明治17）年，将来の貴族院の選出母体をつくるために公布されたのは華族令である。華族令では公・侯・伯・子・男の5つの爵位が設けられ，特権を有する身分とされた。
- 問 g 大日本帝国憲法の第十条には「天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス」とあり，文武官の任用も天皇大権に含まれる。
- 問 h 1890（明治23）年に制定された民事訴訟法は，フランス法に規範をとったのではなく，ドイツ法を規範としたものであった。

【7】

解答

- [A] あ 56 い 57 う 34 え 31 お 23 か 52 き 50 く 41
け 27 こ 39 さ 47 し 25 す 53 せ 33 そ 64 た 42
ち 63 つ 36 て 13 と 14 な 20
- [B] a 女子差別撤廃 b 男女雇用機会均等法
- [C] (1) 労働組合の助長・教育の自由主義化・圧政的諸制度の撤廃・経済民主化

(2) 圧政的諸制度の撤廃。GHQの指令により1945年治安警察法が撤廃され、女性の政治活動禁止が撤廃された。(49字)

解説

[A]

お〜く 青鞥社は1911(明治44)年に平塚らいてう(雷鳥)を中心として、女性によって結成された文学団体で、文芸雑誌「青鞥」を発行した。「青鞥」は後に婦人の啓蒙誌へと転換していった。女性の解放を主張したため、従来の封建的な観点から批判を多く受けた。

け〜す 新婦人協会は1920(大正9)年に平塚らいてう・市川房枝らが、女性の地位向上のために設立した団体。様々な婦人運動を展開したが、とくに、女性の政治活動を禁じた治安警察法第5条の撤廃をめざした。内部対立や財政難で1922(大正11)年に解散した。

1924(大正13)年に市川房枝らを中心に婦人参政権獲得期成同盟会が結成され、女性の参政権獲得のための運動が展開されたが、護憲三派で構成された加藤高明内閣において改正された衆議院議員選挙法においても、男子のみの普通選挙が認められるにとどまった。

そ〜ち 与謝野晶子は『みだれ髪』『君死にたまふこと勿れ』などで有名な歌人。

山川菊栄は、日本社会主義同盟に参加し、翌年には、婦人社会主義者団体の赤瀾会を結成した。赤瀾会はデモ行進や陸軍演習中に反戦ビラをまくなど急進的な行動を行い、そのため弾圧された。山川菊栄は第二次世界大戦後には初代婦人少年局長となった。

つ〜な 第二次世界大戦後、マッカーサーが口頭で幣原喜重郎首相に伝えた五大改革指令の一つに「婦人の解放」がある。これに基づき男女平等の参政権が与えられ、衆議院議員法では、20歳以上の男女に選挙権が、25歳以上の男女に被選挙権が与えられた。戦後初の総選挙では、39名の女性代議士が当選を果たした。

[B] 近年の男女平等への過程としては、1986(昭和61)年の男女雇用機会均等法の制定がある。これは、1979(昭和54)年に国連で採択された「女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約」いわゆる女子差別撤廃条約の前提となる国内法の整備の一環として制定された。雇用や昇進に関する男女差別の禁止を義務づけている。

[C]

(2) **【解答のポイント】**

圧政的諸制度の撤廃=圧政的諸制度のうち、婦人解放運動のポイントであった治安警察法(第5条)を挙げる。

⇒治安警察法の撤廃により、女性の政治活動禁止が撤廃された。